

# 景況レポート

(11月分・情報連絡員80名)

## 再び、非製造業で業況DI値後退

### 【概況(全体)】

11月分の県内景況は、前年同月と比較して景況が「好転」したとする向きが10.0%(前回調査12.5%)、「悪化」が31.3%(同25.0%)で、業界全体のDI値は-21.3となり、前月調査と比較し8.8ポイント下回った。

全国及び東北・北海道ブロックとの比較では、本県の景況DI値は、非製造業では1.0ポイント東北・北海道ブロックを上回ったものの、全体及び製造業のDI値は全国及び東北・北海道ブロックを下回り、低調に推移した。

### 【業界別の状況】

業界別では、一部の鉄鋼・金属、卸売業及び建設業で業況の好転割合を維持しているものの、小売業及びサービス業等で悪化割合が増加したことで景況感が後退した。

なお、全体の景況感は、販売価格が上昇しているが、売上高に結びついていないことから収益状況の改善が見られず、依然として各調査項目で低調に推移している。今後も原材料及び燃料価格の上昇による経営コスト増加も見込まれており、中小企業の先行きは予断を許さない状況にある。

### ＜全国及び東北・北海道ブロックとの景況DI値の比較＞

	秋田県	全 国	東北・北海道
全 体	-21.3	-15.0	-20.9
製 造 業	-18.7	-8.8	-15.6
非製造業	-22.9	-19.6	-23.9

### ＜景況天気図＞

項目	業界の景況	売上高	販売価格	取引条件	資金繰り	雇用人員
製 造 業						
非製造業						

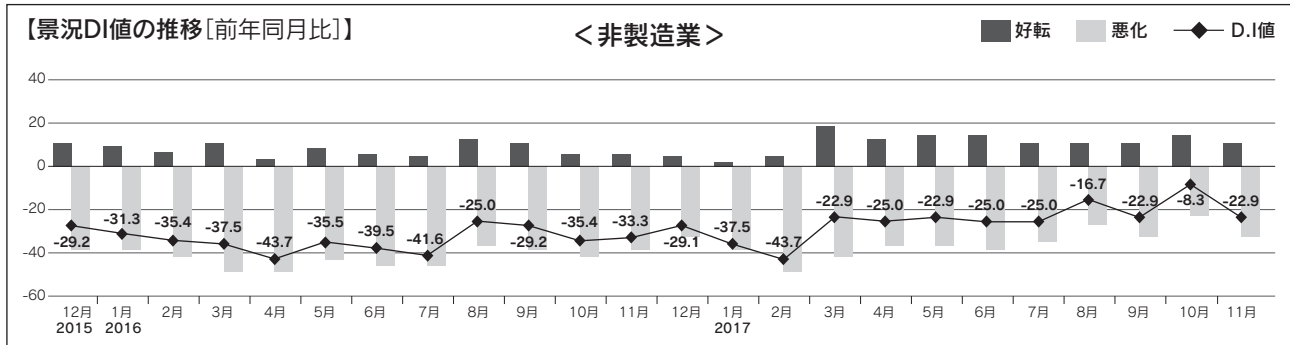
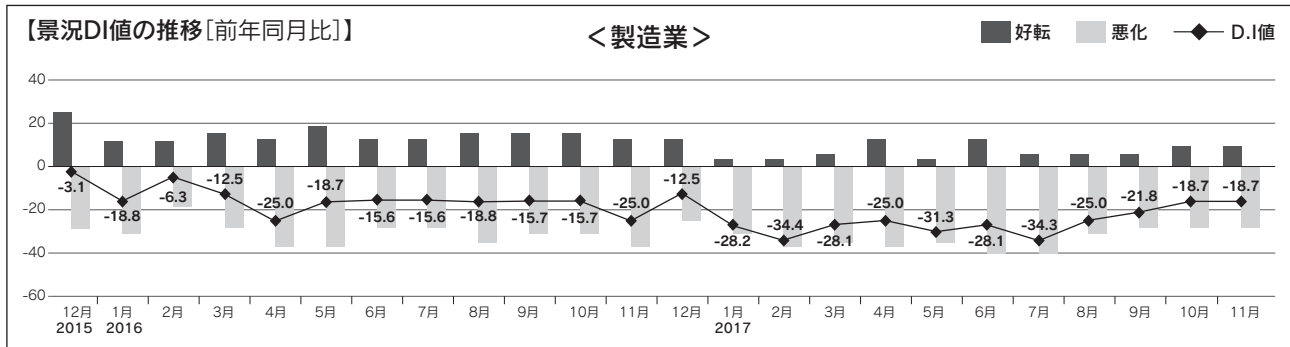
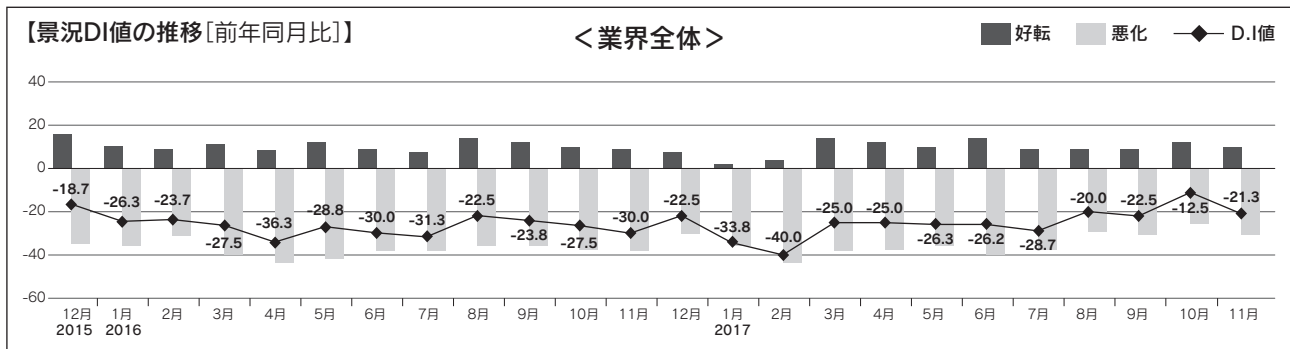
【凡例】   
 【天気図の見方】 前年同月比のDI値をもとに作成しています。

※DI値とは、Diffusion Index(ディフュージョン・インデックス)の略で、増加(好転)したとする企業割合から、減少(悪化)したとする企業割合を差し引いた値です。

### 【業界の声】 ～製造業～

(回答数：32名 回答率：100%)

食 料 品 ( 豆 腐 )	売上、収益とも前年並み、前月比も同じ推移であった。季節柄鍋物が需要期となり動きはあるが、競争も激しく収益の回復も進まない。
食 料 品 ( 菓 子 )	原材料の高騰が続き、それを販売価格に転嫁出来ないことから厳しい状況にある。
食 料 品 ( 精 穀 ・ 製 粉 )	年末の需要期へ向け、工場稼働率は上昇しているが、売上は前年並となった。
織 維 工 業 ( ニ ッ ト )	例年通りの閑散期である。春物の生地への投入も全般的に遅れており、各社対応に苦慮している。
織 維 工 業 ( 織 維 )	商品販売数の減少により受注も減少し、納期が集中して生産計画が組みにくい。加えて売れ筋の商品アイテムが少ない。
木材・木製品 ( 一般 製 材 )	10月後半から原材料の丸太の入荷状況が良くないことから、いくつかの商品アイテムに欠品が発生し、売上が減少している。また、操業率も落ちており収益状況に影響が出ている。
木材・木製品 ( 素 材 生 産 )	合板生産量は、国産針葉樹合板の引き合いが好調なことから、各合板工場はフル稼働となっている。秋田スギ原木の消費は横ばいで推移しているが、降雪等の関係から原木の供給量は減少。一般製材用原木の生産量及び消費については、製材品の需用が安定していることから順調に推移しているものの、合板用原木と同様、一般製材用原木の供給量は減少している。
木材・木製品 ( 外 材 )	県内合板メーカーの生産量の8割強を構造用及びフロア台板が占めている。また、その需要先である住宅については、持ち家や賃貸住宅は減少傾向が見られるものの、戸建分譲住宅が市場を牽引し、順調な需要が続いている。
窯業・土石製品 ( 生コンクリート )	11月の出荷数量は、前年比86.5%、4月～11月累計で94.2%台となった。県南地区の出荷量は国発注工事により徐々に上向き傾向となっているが、他地区は前年を軒並み下回っており、過去最低の数字になると思われる。
鉄鋼・金属 ( 機 械 金 属 )	各社、多少のバラツキはあるものの、先月よりは僅かながら収益状況は好転している。見積り物件は減少していても当面の受注は確保されている。



【業界の声】 ~非製造業~

(回答数：48名 回答率：100%)

- 卸売業 (青果) 11月の売上は、前年同月比93.4%で推移した。県内産はもとより隣県(青森、岩手)からの野菜の入荷量が少なく、関東方面から高値で仕入している状況で、売上も伸びていない。
- 小売業 (みやげ品) 入込客数は前年度比では変わらないが、1人1人の消費額が減少している。売上ベースでは前年度比90%であった。
- 小売業 (自動車) 11月の新車販売台数は、登録自動車1,919台(前年同月比91.9%)、軽自動車1,741台(同97.5%)で、合計3,660台(同94.5%)であった。
- 小売業 (花卉) 卸・仲卸は昨年より1割程度の売上が伸びているが、小売業者は相変わらず減少傾向にある。卸・仲卸の売上アップは花の価格が高値取引であったためで、なかなか持ち直しの兆しが見られない状況にある。
- 商店街 集客力不足に加えて近隣大型店に客足を奪われており、小売物販は引き続き厳しい状況にある。(秋田市)  
商工会議所調査の通行量調査の結果が発表され昨対20%減の報告があった。9月末閉店したスーパーの影響が大きく集客のマイナスとなっている。(大館市)
- サービス業 (自動車整備) 自動車検査台数実績では全体で前年同月比7.4%減少した。内訳は登録車が11.2%の減少、軽自動車も2.1%の減少となった。また、4月～11月累計では対前年同期比1.0%の増加となっているが、前年同月比では9月以降、減少に転じている。
- サービス業 (建築設計) 長期間と見込まれる設計業務をJV形式ではあるが受注している。当面は主要業務として位置づけるので、組合としては景気が上向くものと期待される。
- 建設業 (一般建築) 公共建築工事では監督員や下請業者が不足し、入札受注が出来ない状況であるが、建設業界関連は多忙な状況にある。
- 運輸業 (トラック) 11月後半、灯油の輸送が本格化し、値上げ前日に配送が集中した。軽油価格は10月、11月で9.5円/ℓ上昇し、コスト増で収益減少となった。(中央地区)